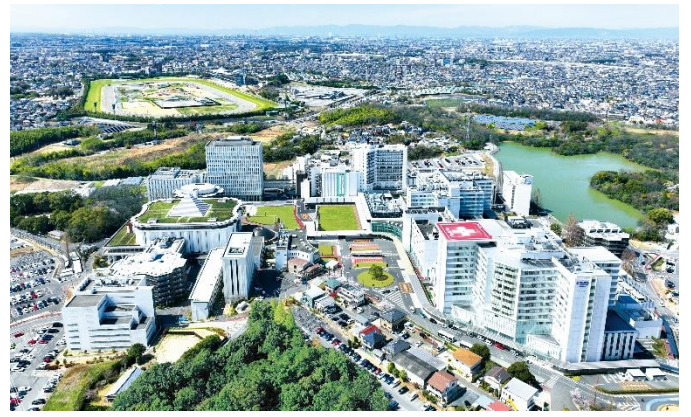


藤田医科大学病院



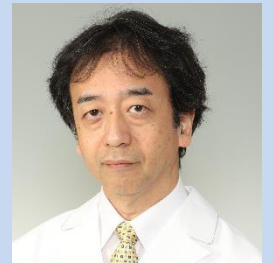
□ 主な連携施設

藤田医科大学ばんだね病院、藤田医科大学七栗記念病院、藤田医科大学岡崎医療センター、安城更生病院、トヨタ記念病院、大同病院、公立陶生病院、中京病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、中部ろうさい病院、岡崎市民病院、南生協病院、名古屋掖済会病院、名古屋記念病院、協立総合病院、総合大雄会病院、海南病院、諏訪中央病院、岐阜市民病院、碧南市民病院、常滑市民病院、日進おりど病院、半田市立半田病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、公立西知多総合病院、総合犬山中央病院、豊田地域医療センター、みよし市民病院、八千代病院、名古屋市立大学病院、愛知医科大学病院、三重大学医学部附属病院、帝京大学ちば総合医療センター、東濃厚生病院、名城病院、刈谷豊田総合病院、豊橋市民病院、西尾市民病院、大垣市民病院、江南厚生病院、一宮市民病院、名古屋市立大学医学部附属西部医療センター、総合病院松江生協病院等。

□ メッセージ

指導医（呼吸器内科 教授 今泉 和良）

藤田医科大学の内科では、内科専門医研修制度が必要とする全ての専門科があり、豊富かつ幅広い臨床研修を積むことが可能です。専門医研修では内科指導医の下で領域別の典型的な疾患を経験し研鑽を積むことが求められます。藤田医科大学病院は、内科各診療科教授を中心に、数多くの内科指導医が若手医師を手厚く指導し、臨床研修センターが研修をフォローアップする体制を整えています。充実かつ不安のない研修を望む専攻医にとって最適な施設です。安心して研修に打ち込めるように、内科教授会は責任をもってサポートしますし、症例登録など研修の進捗状況を臨床研修センター専属の職員が把握しバックアップするシステムも導入しています。将来行きたい専門科が未決定の専攻医は、救急総合内科に仮所属して内科の一員として研修が可能ですし、既に将来の専門科を決めている専攻医は内科研修を進めながら各専門科の専門研修を併行することもでき、大学院入学も可能です。藤田医科大学内科では、各個人の希望に応じたきめ細かな研修プログラムを準備しています。



□ 募集要項

・採用予定人数	24人
・給与/月額	月額 308,568 円（2022 年度実績・週 37.5 時間の場合・みなし固定残業手当を含む） 別途、賞与、超過勤務手当、その他各種手当支給あり
・当直回数/月	0 回/月
・当直料/回	当直 12,000 円/回
・その他	カフェテリアプラン（選択型福利厚生制度）2023 年度 55,000 円/年
・応募連絡先	担当者 今泉 和良（副院長、呼吸器内科教授） 電話番号 0562-93-9241 Eメール jeanluc@fujita-hu.ac.jp

病院長名 白木 良一

所在地 〒470-1192

愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1 番地 98

交通案内 名鉄線名古屋駅より（22 分）前後駅下車、名鉄バス（15 分）「大学病院」下車／桜通線名古屋駅より（35 分）徳重駅下車、名古屋市営バス徳重 13 系統または名鉄バス（16 分）「大学病院」下車／鶴舞線伏見駅より（21 分）原駅下車、名古屋市営バス徳重 13 系統（33 分）「大学病院」下車

□ 病院の特徴

当院は名古屋市に隣接しており、道路を渡ると名古屋市という好立地にあります。多種多様な疾患に対応しており、DPC 件数も全国の大学病院の中で常に 1、2 位を争う状況です。

内科は、循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌代謝、血液、神経、膠原病、感染症、救急、総合内科、腫瘍、高齢者医療の各専門科を有し、内科の全領域の臨床をあまねくカバーし、幅広く豊富な症例の診療にあたっています。大学病院として行う高度専門的医療から、地域の中核病院として一般的な疾患まで、幅広い診療が特徴です。内科各専門科は常に連携して臨床・研究を進めており、多くの業績を国内外に発信しています。

□ 研修プログラムの特徴

【研修プログラム名】

藤田医科大学病院内科専門医研修プログラム

【研修目標】

標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能を修得します。

【研修期間】

3 年

【研修スケジュール】

将来の subspecialty が決定していない場合や将来 generalist を希望する場合に行う内科基本コースでは、救急総合内科を基軸に、内科の全ての科を一定期間ローテートして、内科全領域の症例を偏りなく研修を行います。また将来の subspecialty が決定している場合には、希望する subspecialty を重点的に研修しながら内科各領域の症例を研鑽しながら subspecialty の研鑽も同時並行で行うことができます。この場合、大学院入学も可能です。いずれの場合も、指導医と内科教授会、臨床研修センターが連携して研修のサポートを行います。地域医療、在宅医療などについても連携施設での研修を通して高い実力を身につけることができます。



▲ER(救急外来)での万全な指導体制

▼先進的医療技術

